

令和元年度瑞浪市地域づくり人材養成講座 第1回講座開催概要

日 時	令和元年8月29日(木) 10:30~15:30
場 所	加子母総合事務所、ふれあいのやかた かしも、かしも明治座
受講者	15名
主催者	岐阜県環境生活部県民生活課 瑞浪市まちづくり推進部市民協働課
内 容	<p>中津川市加子母地区のまちづくりを学ぶため、現地に赴き、活動の話を聞いたり、見学したりしました。</p> <p>1 活動説明・質疑応答：「加子母むらづくり協議会」 加子母むらづくり協議会(以下「協議会」と言う。)の活動について、お話を伺いました。</p> <p><協議会の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 全世帯が参加・協力して地域の自立を目指すため、平成23年7月に発足。平成27年2月には「NPO法人かしもむら」を設立し、財政基盤部分を強化。加子母地区の地域づくりの中心組織として、様々なことに取り組んでいる。 10の区(総称：区長会)と約70の地域活動団体が属する10の分科会で構成されており、協議会で決定された方針や活動については、「NPO法人かしもむら」が実践している。  <p>▲挨拶される中島協議会長</p> <p>◎「NPO法人かしもむら」について</p> <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 協議会で決定された事業の実施主体として、定款で定められた11事業について事業を運営。協議会の実行部隊であり、財政基盤部分を担っている。 理事は、区長及び分科会長で構成されており、協議会の意志決定が尊重できる仕組みとなっている。 <p><事業内容></p> <p>「施設運用・活用、文化・芸術継承、少子化対策・定住推進、地域放送普及、域学連携、農林業振興、教育・スポーツ振興、商工業振興、地域資源活用、観光振興、地域安全・災害者支援」の11事業あるが、現在実施している事業は以下のとおり。</p> <p>(1)かしも明治座の管理・運営 中津川市より指定管理業務を受託。管理・運営すると共に、自主事業として、物品販売や施設案内ガイド、隈取体験などを実施している。</p> <p>(2)地域放送構築・普及事業 地域の情報を伝える地域放送と買い物を支援する生活支援システムの管理・運営を行っている。受信機は加子母の特産ヒノキを使用しており、音声や文字放送、グループ放送など様々な種類がある。生活支援システムでは、テレビショッピングと同じように、ほしい商品を注文すると商品が届く仕組みとなっている。参加事業者は加子母の事業者のため、即日対応してくれる。</p> <p>(3)コミバスの有償運送 1便当たり8~9人と利用者が他地域に比べて多い。利用者が多い要因としては、病院、ショッピングセンター、総合事務所など生活に必要な施設に、乗り換えることなく、行くことができる使い勝手のよいルートになっていることが挙げられる。</p> <p>(4)軽トラ市の開催 6~12月の第3日曜日に開催。当初は、畑でできた家族だけでは食べきれない野菜を販売し、副収入を得てもらおうと実施していたが、現在では、工芸品や手作り作品なども販売されるようになり、出店者数、来客数ともに増加し、賑わいを見せている。</p> <p>(5)観光振興事業 加子母のよいところを知ってもらうための「加子母るツアー」を開催したり、マレーシアからの学生たちも受け入れたりしている。</p>

<協議会の事業>

(1)加子母教育の日の実施

地域の人が講師となって、加子母の歴史や歌舞伎などについて子ども達に教えている。小学1年生から中学3年生まで、学年ごとにテーマを設定し、加子母について学んでもらっている。

(2)どあいランプ村で「自然学校」を開催

電気がない場所で、子どもたちに自然を活かした生活を体験してもらっている。同事業は子ども会が中心となって実施している。

(3)地域の行事の実施

鬼めくり、左義長、かしも夏まつり、水無神社の例祭、体育祭など



▲活動説明の様子

<地域課題に対する取組み>

- ・少子・高齢化が課題。特に少子化が進んでおり、子どもたちと20・30代が極端に少なくなっており、これからの地域の担い手不足が懸念されている。
- ・協議会でも地域づくり分科会でも少子化は課題であり、1つの団体では解決できないため、域学連携の学生にも参加してもらい横断的に取組む「少子化対策検討委員会」を設置。現在では、子育てしやすい環境づくりに取り組むチームと転入者を増やすための取組みを行うチームをつくり取り組んでいる。

◎加子母地区の強み

- ・「自分たちでやる、みんなで助け合う」という精神が根付いており、住民が一体となって地域づくりに取り組む雰囲気になっている。
- ・協議会に属している団体は、別組織として個々の活動を行いつつ、常に連携し、「オール加子母」体制で、自立した地域社会をつくっていくことに取り組んでいる。

2 説明：「加子母木匠塾」について

平成6年から行われている「加子母木匠塾(以下「木匠塾」と言う。)」についてお話を伺いました。また今年度の木匠塾に参加していた京大チームが、活動発表をしてくれました。

<木匠塾の概要>

- ・学生たちが10日間加子母に泊まり込み、地元業者の指導を受けながら、木製構造物を製作する事業。
- ・現地での製作自体は8月に行われるが、前年の10月から各大学の幹事が月に1回加子母に集まり、何を製作するか、どう進めていくかなどのお話をしに行い実施している。
- ・当初は関東・関西の各大学教授の呼びかけで、6大学から約50人が参加するだけであったが、現在では8大学約300人の学生が参加する大規模事業になった。令和元年度は、277名の学生が参加した。



▲説明をする京大チームの学生

- ・当初は大学教員が中心となって活動を実施していたが、現在では学生が中心となり活動を実施。生活係、イベント係、広報係などの係に分かれ、製作だけでなく、地域住民や他大学生との交流、活動のPRも行っている。
- ・参加者が多いため、台所、お風呂、洗濯機の使用は過密スケジュールとなっており、そのスケジュール表も学生たちが作成している。

<資金について>

- ・材料費については、農林水産省の補助金や清流の国ぎふ森林・環境税の助成金、中津川市の域学連携の補助金を活用している。申請等の事務は、協議会が行っている。
- ・その他の費用については、学生たちが支払う参加費を充てている。

<製作物について>

- ・区長会を通して地域の要望を聞き取り、地域で必要なものを製作している。
- ・現在は補助金等を活用しているため、学校や公園などの公共スペースに、本棚や東屋などを製作している。
- ・以前は補助金等を活用していなかったため、自宅のガレージなど、個人的に使用するものを製作する施主制度をとっていた時期もあった。当時は、一定額を超える場合は、施主に代金を支払ってもらっていた。

<加子母とのつながり>

- 木匠塾に参加した学生が、加子母に就職するケースはほとんどないが、自分たちの作ったものの補修やペンキの塗り直しをしに来たり、後輩たちのために差し入れをしに来たりと、交流は続いている。

3 見学：かしも明治座

NPO 法人かしむもらが指定管理を受け、管理・運営している「かしも明治座」を案内していただきました。

- 明治27年に村の有志たちによって約1年かけて建てられた、間口19.6m、奥行7.85m、2階建て白壁の切妻造り芝居小屋。毎年9月に行われる加子母歌舞伎保存会による公演会をはじめ、クラシックコンサート、落語会など、様々な催しが行われている。
- 小規模な芝居小屋ではあるものの、回り舞台、仮花道、すっぽん、奈落を備えている。
- 引き幕は、創建当時に下半郷各戸の主婦によって制作されたもので、各家の屋号の入った模様が染め抜かれている。現在は、中津川市指定有形民俗文化財にもなっている。
- 耐震改修を目的とした平成の大改修では、外観を創建当時の姿に戻すという試みも行われ、屋根をクリやサウラなどの樽萱き石置き屋根に変更した。樽萱き屋根は20～30年に1度萱替えしなくてはならないため、来場者に樽板募金をお願いし、次回作業の資金確保に努めている。



▲明治座の外観